

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

適正年度	令和5年度	学校コード	F127310107938	設置等組織名	工学部 地域連携DX学科（予定）
大学名	桃山学院大学	設置区分	私立	事業計画名	桃山学院大学 工学部（仮称）の新設
学校種	大学	都道府県	大分府		

1. フェーズ別の新設及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	フェーズ1（令和5年度から令和6年度）では、令和5年度に①各種調査に基づくカリキュラム等の検討、②検討体制の整備、令和6年度に③広報活動、④自治体制に向けた財務基盤強化等、⑤設置認可申請準備等の業務を行う予定である。 ＜令和5年度＞ ①では、新設する学部学科の学習領域・カリキュラム等について、連携する地域の自治体・企業等へのヒアリングだけでなく、地域ニーズ（出口・入口）、成長分野の将来性に関する調査・検討も行う。また、②では、新学部設置に伴う事務局体制の構築、産官学連携した事業実施委員会の設置、基幹教員や実務家教員の確保のための渉外活動を行う。 ＜令和6年度＞ ③では、十分な学生確保を行うため、高校生に対する進学ニーズ調査、必要な広報物の製作やメディアへの展開等を行う。④では、フロンティアの雇用により、戦略的な寄付金獲得への足掛かりを行うとともに、共同・受託研究関係の構築のための渉外活動を展開するとともに、学内での寄付金獲得のための組織整備に関する検討を行う。⑤では、令和8年度学部設置に向け、文部科学省等へ令和6年度末までに遅滞なく申請を行うための組織的体制を整える。	＜令和5年度＞ ①では、新設する学部学科の学習領域・カリキュラム等について、連携する地域の自治体・企業等へのヒアリングだけでなく、地域ニーズ（出口・入口）、成長分野の将来性に関する調査・検討を行った。また、②では、新学部設置に伴う事務局体制として、大学将来計画室理系学部設置推進室を設置した。加えて、産官学連携した事業実施委員会として、「桃山学院大学学長アドバイザ」ボードを設置するべく、規程を整備した。委員会の運営は令和6年度に開始する予定である。また、基幹教員や実務家教員の確保のための渉外活動を行った。教員確保のための渉外活動は令和6年度も引き続き実施する予定である。	R5年度自己評価	【2】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前編し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和7年3月 工学部 地域連携DX学科（仮称）設置認可申請予定			
フェーズ1 準備し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	本構想は、本学初の工学部を設置し、60有余年の歴史を持つ本学既存学部の内容である人文・社会科学と融合する教育・研究を通じて、その成果として得られる総合知を地域の価値向上に活用しながら、地域の持続性に役立つ人材を養成することを目的としている。このために、イノベーションモンス（共創拠点）となる新校舎を建設し、実験・実習や社会実装等に適した教育研究施設を整備する。不足する教場については、既存設備のリノベーション工事をを行い、必要十分な施設を整備する計画である。施設・設備等については、フェーズ1における調査をもとにカリキュラムの構築と必要設備・機材の買い出しを行う。		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和8年4月 工学部 地域連携DX学科（仮称）開設予定（入学定員160人、編入学定員なし、工学関係）			
フェーズ2 後編し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	フェーズ3（令和8年度から令和11年度）では、自立化に向けた深化を図り、①新設学部の適正な運営、②新設学部の積極的な広報展開と招徠支援体制の整備、③財務基盤の強化を行う。 ①では、新設学部の施設・設備等の保守運用が開始することになり、本事業の経費の適正な管理を行う。②では、安定的な定員確保のための入試・広報課による高校訪問を強化するとともに、女子学生比率の引き上げを目指す。連携校の開拓等を行う。また、完成年度に卒業生が望む進路選択ができるよう、キャリアセンターによる理系学生を積極採用する企業との関係構築を行う。③では、フロンティア機能を更に強化すると同時に、連携企業等を増加させ、受託研究等の外部資金獲得に努める。		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和7年12月 既存学部学科の減員に係る届出予定（入学定員▲160人、編入学定員なし）			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	桃山学院大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設備計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に詳細（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を設置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において良体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の進定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑨	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	桃山学院大学
-------------	-------	-----	--------

③

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■

チェック

④

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■

チェック

⑤

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■

チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- A：連携を通じた教育体制の整備と実施（連携開設科目等に限らない）

■

チェックa.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

■

チェックb.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

■

チェックc.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施について、本学には、チームでの課題解決型授業（PBL）を学びの中心に据え、70校を超える企業・自治体・団体等と産官学連携した実践教育を特色とするビジネスデザイン学部があり、既に産官学連携基礎を有している。工学部においても、この基礎を水平展開し、気候変動問題等の地球規模課題や地域の社会課題解決に取り組むPBLを複数開講する計画である。また、サイバ空間とフィジカル空間を融合させたデジタル技術も有効活用し、本学が加盟する大学コンソーシアム大阪における他大学との連携や、日本協会公会の関係学校とのPBL等の科目の共同実施や単位互換制度等を設ける計画である。さらに、本学は既に世界26の国・地域、64大学と国際交流の提携を行っており、この基礎により関連分野に強みを持つ海外大学と連携し、支援期間中に英語でのオンライン合同研究発表会、交換留学プログラムの整備・実施等を進める計画である。	企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施について、本学ビジネスデザイン学部の産官学連携基礎にもとづくPBLのみならず、他大学の先行事例調査も実施したうえで、工学部のかきくまにおいても、社会課題解決に取り組むPBL等を複数開講する計画としている。具体的な連携企業については、R6年度に開拓を進める予定である。また、他大学との連携による科目の共同実施に関して、データサイエンス関連科目を中心に、他大学の開講状況を調査した。大学コンソーシアム大阪における他大学との連携や、海外協定校との単位互換制度等の設計については、R6年度に検討を行う予定である。	

- B：多様な入学者の確保に向けた取組

■

チェックa.入学者選抜における科目の見直し

■

チェックb.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

■

チェックc.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

■

チェックd.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）

■

チェックe.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
①本構想に係る工学部では入学者選抜における科目を見直し、数学と理科等の追加を予定している。②女子学生の確保と女性デジタル人材の育成に向けて、女子枠等を設けるほか、新校舎の建設等キャンパスの充実を図る。また、キャリアパスの説明等の就職支援もを行い、志願者数増に向けた諸施策を実施する。③本学は桃山学院教育大学を2025年度に大学統合し、桃山学院大学人間教育学部を開校し、地域の初等中等教育段階の学校との連携を強化する予定であり、工学部も算数、理科、情報等の出張授業の実施等を行う。④本法人は、過年度よりデジタル人材育成の力リント教育を実施しており、成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業の採択を受け、R5年度もアチームコンファイング社をはじめとする企業と連携し、地域の社会人向けの力リント教育「DOX/GX推進リーダー育成プログラム」を実施した。⑤日本または母国の日系企業での就職支援一環として、留学生向け日本語教育を見直し、R5年度より留学生全員に対して卒業までにJLPTノN1の取得を支援するプログラムの運営を開始した。加えて、キャリア形成支援を促進すべく、地域の外国人生徒のサポートや災害時の外国人支援スタッフ等、留学生の特質をいかしつつ、地域に根差したボランティア活動への参加を促すとともに関連研修を実施した。	①入学者選抜における科目の見直しについては、予定通り数学と理科等を追加する方向で、R6年度に制度設計を行う予定である。②女子学生の確保（志願者数増）に向けた他大学の取組みを調査するとともに、他大学の施設を調査した。R5年度に実施した調査に基づき、女子学生確保の視点を取り入れ入試制度やキャリア形成支援の設計および新校舎の基本計画はR6年度に策定する予定である。③地域の初等中等教育段階の学校との連携を強化については、予定通り算数、理科、情報等の出張授業の実施等を行う方向で、R6年度に制度設計を行う予定である。④成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業の採択を受け、R5年度もアチームコンファイング社をはじめとする企業と連携し、地域の社会人向けの力リント教育「DOX/GX推進リーダー育成プログラム」を実施した。⑤日本または母国の日系企業での就職支援一環として、留学生向け日本語教育を見直し、R5年度より留学生全員に対して卒業までにJLPTノN1の取得を支援するプログラムの運営を開始した。加えて、キャリア形成支援を促進すべく、地域の外国人生徒のサポートや災害時の外国人支援スタッフ等、留学生の特質をいかしつつ、地域に根差したボランティア活動への参加を促すとともに関連研修を実施した。	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	桃山学院大学
-------------	-------	-----	--------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	桃山学院大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	桃山学院大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	桃山学院大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1690	1690																	
		入学者数	人	1752	1706																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,690	1,690																	
		入学者数(B)	人	1,752	1,706																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.04	1.01																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	6560	6760																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	6814	6972																	
		編入学者数	人	29	16																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	1.03																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況								選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		53,037	50,896	97,837	53,698	68,871	75,732													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	58,536
本事業による助成金の額(F)	千円	1,870,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	105,286

特記事項

「3.大学（学士課程）の状況」の収容定員等の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
